

早くも残り2か月弱！

早いもので1月も終わり、今年度も残すところ2か月を切りました。生徒たちは、それぞれに充実した学期になるように最後のまとめに取り組んでいます。

さて、2月1日・2日に3年生39名が公立高校の前期選抜を受検しました。第一志望校への全員合格を心から祈っています。

生徒会による朝の挨拶運動

毎朝、生徒会による挨拶運動が行われています。今日は、雨のため、技術科室側の通路で行いました。生徒会で推奨している挨拶五原則を提示しながらの活動です。



生徒の皆さん！挨拶5原則
できていますか？

挨拶5原則	
1、立ち止まって	
2、笑顔で	
3、目を見て	
4、大きな声で	
5、頭を下げる	



<喜々津中に0対1で惜敗>

○令和5年度
県新人戦大会
・バレーボール競技
・サッカー競技
2回戦 惜敗

各種大会が行われました。

これまで、12月、1月、2月各種大会が行われ、生徒たちの活躍している場面が多くありました。結果は次のとおりです。

- 南島原市イングリッシュ・スピーチコンテスト
 - ・努力賞：加藤清史郎、池田香穂
- 第27回福岡大学招待中学校女子バレーボール大会：3位パート優勝
- 第18回郵便局長杯南島原市中学生ソフトテニス大会：総合優勝 男女ソフトテニス部
2年生の部（シングルス）準優勝 城谷理生
1年生の部（シングルス）優勝 松川健人
- 第17回島原半島中学校対抗卓球大会
中学2年男子団体戦 第3位 西有家中
- 第4回長崎県中学校郡市対抗選抜団体男子ソフトテニス大会 第3位 西有家中
- 長崎県小中学校美術作品展「子ども県展」入選者
 - ・安達萌香、松川湊士、森 月紬、佐藤慎斗、川上夏樹、宮崎和花、宮崎あさ美、吉田藍夢、石橋弥雅、吉田好花、志岐彩花
- 第18回南島原市中学生ソフトテニス春季大会
 - ・男子個人戦の部：優勝 松野、松川ペア
3位 城谷、瀬川ペア
 - ・1年女子シングルの部
第3位 高木莉愛、荒田裕香
 - ・2年男子シングルの部
第3位 松野侑吏、城谷理生
 - ・1年男子シングルの部 優勝 松川健人
- 長崎県中学校駅伝競技新人合同記録会
第3位 平山 純也



1セット目
20-25
2セット目
23-25

<桜が原中に惜敗（あと1歩でした）>

母親部会による挨拶運動

今年最初の活動が、雨の中に傘を差しながらありました。お母さん方にとって、朝の一番貴重な時間に子どもの安全のために、取り組んでいただき、本当に感謝です。



ブレイクコーナ

自分の考えや人の受け売りです。

気軽にお読みください

教育ジャーナリストの加藤紀子氏が書かれた本に興味深い内容がありましたので、紹介します。

根拠のない自信

人は自分に自信がもてなければ、相手に拒否されて傷つくことを恐れ、人づきあいを避けようとしてしまいます。子どもも同じです。「自分はこれでいいんだ」と思える子どもは、自信をもって自分の気持ちを表すことができます。

20年にわたり、5000回以上の面接を通して子育ての悩みに寄り添ってきた、医師で臨床心理士でもある田中氏は、子どもが親から見て間違ったことを主張してきたときには、それを理屈で否定しようとせず、意見を言えた勇気を認めてやるのが大切だといっています。人が人として生きていくには、「理由はないけれど、うまくいくような気がする」といった、無条件に自分を信じる力がとても重要です。つまり、根拠のない自信が大切になってくるということです。

自分はいつも認められているという実感が、相手との心の壁を取り払い、コミュニケーションへの意欲につながるのです。では、子どもに「根拠のない自信」をつけてあげるにはどうすればいいのでしょうか？「テストで100点をとった」「大会で一番になった」といった具体的な成果をほめるのもよいですが、そこから生まれる自信は根拠に基づいたものです。根拠のある自信は、根拠となる事実が消えるとなくなってしまう。根拠のない自信は、そうした条件付きの自信ではなく、親からありのままを受け入れられ、愛されているという実感から生まれるものです。苦手なことをがんばって克服するのは大事なことです。ですが、親が固執すぎて子どもを追いつめると、自信どころか劣等感ばかり増してしまう可能性があります。

子どもと話をするときは、親は聞く側にまわります。「そうだったんだ」「わかるよ」という相づちとともに、どのようなことにでも耳を傾けると、子どもは小学校に入るところから自分と他者を比較するようになり、「負けたら悔しい」といった感情をもつようになります。大切なのは負けたとき、落ち込んだときに立ち直る力を身につけることです。この回復力は、心理学では「レジリエンス」と呼ばれています。

子どもが失敗したときも、他の子と比べるのではなく、良い面に注目して「よくがんばったね」「勇気があったね」などと認めてあげると、立ち直る力を伸ばしてあげることができます。児童青年精神科医の佐々木正美医師は、「子どもは自分を信じてもらうことによって、信じてくれた人を信じます。そして自分が信じられたことによって、自分を信じることができるのです」と言われています。まずは親が子どもを信じる。そうすれば、子どもは親を信じ、自分を信じることができます。親の関わり方が大切になってきます。自分の子ども時代を思いおこしながら子どもと接したいものです。